

原発事故被災者

# 相双の会

NO. 10

発行日  
2013年2月25日  
連絡先  
國分富夫（会長代行）  
住所  
〒965-0013  
会津若松市堤町6-12  
電話 090 (2364) 3613  
メール  
kokubunpi-su@hotmail.co.jp

「帰還 30 年後」!

## 双葉町前町長（井戸川克隆）の表明に対する識者のご意見

1月5日に「福島民友」はじめ各新聞が、元の町への帰還目標時期について「暫定的に30年後とする」という井戸川双葉町長（当時）の発言を報じました。

放射能セシウム137の半減期が約30年であることが理由です

これまで多くの方々と接して、確かに年寄りには「早く帰りたい」と言う声が多くあります。しかし、広野町と川内村は帰還宣言して一年過ぎますが、一割程度しか帰還していない状況です。何故か、第一原発がまだまだ不安定であることと放射能への不安からだろうと思います。

双葉町は原発立地町であり、町民の安心安全を一番に考えた末の勇気の決断だろうと思います。

この発言についての各界の識者の考えをいただきました。

会報11号にも記載します（来月発行予定）

### A 弁護士からの意見

① 井戸川町長が、連合町村協議会に欠席したなど、協調性がないと「不信任」を受けましたが、「朝日新聞」の「プロメテウスの罠」では、放射線汚染を町民にさせてはならないという、相当の覚悟が伝わってきました。その強い意志には、この記事を読んで共鳴をしていました。この根源は町民を被曝をさせてはならないとい

う町長としての、権力には靡かないという強い意志の表れではないかなあーと感じています。町長はどこかの国会議員や地元の権力者の後押しでなれる。なおかつ、これまで交付金をもらい続けたわけだから、東電への遠慮もあるはずの中で、相当の圧力の中での表明だと思いました。

② 問題は複雑です。まずは、A：被ばくによる健康への影響と、B：避難による社会生活上の影響ないしこれによるさまざまな弊害という、両立し得ない価値の二者択一の中で、当事者はどう行動すべきかという問題。そして、このABのどちらかを選択させられるという事態そのものをどう評価すべきかという問題が前提にあるでしょう。さらに、どちらか一方を選ぶと他方の影響を受けることになる以上、その影響（被害）を補填する手当がなければ行動できないという問題。そもそも、選択を迫られるにとしては、判断の前提になる情報が不十分だということもあります（各地域・住区の線量すら十分把握できない、被ばくの影響についての医学的説明も不十分）。

③ 私は、基本的には、被ばくによる健康上のリスクを優先的に重視して、避難の権利確保が保障されるべきだと考えています。その延長として、帰還を強制されない権利を重視しています。

そこで守られるべきは、健康そのもの（健康上のリスク回避）だけではなく、安定した生活や職業を維持する権利（帰還を強制されず、避難先で定住する権利）や、さらには価値判断の自己決定権も含まれていると考えています。

④ しかし、避難そのものも、上記Bの不利を甘受させられるので、そのもたらす被害についても正確な理解が必要だと考えています。この間に見聞きした専門家の所見によれば、避難生活そのものが精神的ストレスであって、この健康に及ぼす悪影響も小さくないということでした。こうした精神的ストレスは癌の発症因子であって、数ミリシーベルトの被ばくよりずっと有害だということです。また、健康への影響以前に、人生のトータルな価値（クオリティ・オブ・ライフ）という観点で、社会生活の被害

は、健康への影響と単純に比較できない意味を持つとも言えます。

⑤ 次に、年間1ミリシーベルトという数値は、管理基準であって安全基準ではないという指摘もあり、これは、科学的には正論だと理解しています。日常生活において、放射線被ばくのリスクなど考えているわけにはいかないですから、平常時には、このリスクを無視できるようなレベルで放射線（線源）を管理する制度が必要なので、そのような線（目安）として年間1ミリシーベルトが定められているに過ぎないという趣旨です。1ミリというのは、放射線被ばくのリスクを無視できるレベルですから、これを超えても被ばくによる被害を心配しなければならないような水準ではないということになります。

しかし、では何シーベルトなら有害なのか、線引きは難しいし、現に政府も20ミリで避難を指示した。実際には100ないし200ミリ以下では影響はないというのが政府見解なのに。そうすると、年間20ミリ以下なら大丈夫だから帰還せよという議論にも納得できないですね。

⑥ そこで、上記の自己決定権という観点や、生活の安定という価値の尊重が出てきます。

こうした様々な価値対立・調整の必要の中で、井戸川さんの考えがどういう意味を持つのか、よく考えてみる必要があると思います。当面帰還を強制されないという意味では積極的な価値を持ちますが、避難生活の弊害や無価値性を重視し、早く帰還したい（そのための除染などの施策を進めて欲しい）という要求も否定できない。町の政策決定は多面的な意味を持つので、今後も議論が続くでしょう。



## 気になる「さっさと死ねるように」発言

1月21日に開かれた社会保障国民会議で某大臣は、終末期医療にふれる中で「さっさと死ねるようにしてもらおうとか、いろんなことを考えないといけない」などと発言、さらに「いい加減死にてえなあと思っても『とにかく生きられますから』なんて生かされたんじゃあ、かなわない。しかも、その金が政府のお金でやってもらっているなんて思うとますます寝覚めが悪い」などと述べた（1月22日「朝日」）。

後であわてて議事録から発言を削除する意向を示したが、このような発言することは、いかに人の命を軽く見ているか、本音が出たのであろう。

原発事故による放射能から16万人以上が逃げ回り避難しているのは、若者・子供たちの10年、20年後の健康不安があるからである。

政治の役目は、なんといっても国民の生命および財産を守る事が第一の使命ではないのか。その土台の上に、経済・教育・文化があ

ると言うことではないのか、私たち避難者は先祖代々全てを奪われ、生活再建の道筋もなく、精神的に命をすり減らして生きている現状を分かっているのだろうか、原発事故がなかったら逃げる必要もなかったし、復興も進み一定の生活基盤ができただろうと思う。

某大臣のこの発言は、安倍内閣の原発被災者への冷たい姿勢を象徴するとも思え、許される事ではないし、大臣の資格どころか国会議員の資格もない。



# 声

# 声

### 避難先南会津町(旧南郷村)で

### 素敵な人と出会い結婚しました

小高 在おおのり南会津町(旧南郷村) 大法冬美(旧姓阿部)

3・11以来、生活が一変しました。豪雪地帯、南会津町(旧南郷村)で2年目の冬を迎えています。2年目になっても雪の多さに驚く毎日です。私は浪江町で一人暮らしを始めて半年ほどでした、車で10分の実家では、稲の種まきの準備にとりかかっていました。

突然の地震、そして津波、多くのものが波に飲み込まれました。そして原発事故により全てを奪われてしまいました。

第一避難所の体育館を三カ所転々とし、段ボールを敷いて寝ました。母は震災の2ヶ月前に心臓手術をしたばかりの病み上がり、4月には中学3年生、高校三年生と進路の岐路

に立つはずの姪子二人も一緒です。すぐに帰れると思っていながらどんどん小高から離れ遠い所への避難となりました。

4月になって、南会津町の第二次避難所の宿舎に入ることができ、やっと昼の部屋で布団に寝ることが出来ました。

宿舎近くの学校に姪子たちは転校し、夏を迎える頃には姪子の二人は南郷（現南会津町）にも慣れ、これ以上転校はせず南会津の学校を卒業することを希望しました。

心配だったのは病み上がりの母です。この寒い豪雪地域に母に居て貰う訳にはいきませんので、父と相馬市へ移転することにしました。私は姪子と3人で南会津に借り上げ住宅へ住む事にしました。結果、両親は孫と離れまた家族ばらばらの生活となってしまいました

女3人の生活に両親はさぞ心配のことだろうと思います。でも私たちは、地域の方々に温かく受け入れられ、ママさんバレーや、地区の運動会、お祭りにも参加させて頂きました。近くのおじいさんやおばあさんが台車に乗せて野菜を持ってきてくれたり、もらいにいったりと、私たち3人もこの地に馴染んできました。

南会津は米、野菜、水が本当においしくて、冬が雪深い分、春の景観は素晴らしく、夏は近くの川に入って遊びました。秋は南郷トマトは驚くほどおいしく、紅葉が山々を埋めつくします。

私は避難地、南会津町（南郷）でとても素敵な人と出会い、昨年末、入籍しました。

正直、今の状況の中結婚することにいろんな葛藤がありましたし、これからもいろいろな問題が出てくると思います。原発事故による暗い影が少し差していますが、それでも、今、私は幸せです。

## 編集子のコメント

こんなに喜ばしい事はない。12月に彼女にお会いした時、突然「わたし南郷へ永住することになりました」と、何とも幸せそうな顔で言うじゃありませんか、噂には聞いていましたが、何れ南相馬の近くに戻るのだらうと思っていましたから何となく寂しさを感じました。その後、新婚さん二人と酒を飲む機会があり、宴席の場で「冬美ちゃんは結婚のきっかけは」と聴いたら初めて会った時に「この人は私の旦那様になる人だ」と感じたそうです。何と云っても一番は優しいこと、姪子さん二人にもとても優しいそうです。夫の克久かつひささんは村でも評判の優しい人だと聞きます。「どうして冬美ちゃんを選んだのですか」と聴くと「まあ……自然だったです」と言っています。

体型は小太りで冬美ちゃんが惚れそうな美形です。

とにかくバンザイ、おめでとう！



いつまでも夫婦

## ぜひご参加ください！ 京都大学 小出裕章 助教 原発問題講演会

とき：6月22日（土） 午後1時30分から

場所：南相馬市民文化会館（ゆめはっと）

後援：そうま農業協同組合／小高区長連合会